

第1群（活動報告）

アクションカードを活用した災害時初動体制の確立に向けた取組
－災害対応に強い組織・人材育成を目指して－

○気仙沼保健福祉事務所 技術主査 奥川玲子

照井有紀, 田代光美, 小野寺広太郎, 渡部和馬, 荒木真央, 村上明花

キーワード: 災害時健康危機管理, アクションカード, 人材育成

I はじめに

東日本大震災から6年が経過し、震災対応の記憶が徐々に風化する中で、次なる大規模災害発生時には被災経験を活かした活動が期待される。一方で、気仙沼保健福祉事務所は若手職員が多く、約半数の職員が震災後の入庁であり、事務所の災害対応について具体的なイメージを持つことが困難な職員もいる。また、仙台地域に自宅や実家を有する職員が多く、週休日等に災害が発生した場合は、限られた職員での初動対応を余儀なくされる。

このような状況から、平時から職員一人一人が災害初動時の対応力を備えておくことを目的に、演習を中心とした所内災害時健康危機管理研修を実施した。

II 方法

H29.5.27に開催された「災害時危機管理支援チーム(DHEAT)養成研修」の出席者(保健所長, 保健師2名)で研修内容を振り返り、問題意識の共有を図った。その後、所内企画会議等で管理職以上に対し、DHEAT養成研修の復命や事務所体制について問題提起を行い、「所内災害時健康危機管理研修会」の実施について提案。結果、「管理職編」と「一般職編」の2段階で、アクションカードを用いた演習中心の所内研修を実施する方針となる。

III 活動内容

- ①H29.10.4 管理職編の開催前に、副所長及び企画総務班員2名を対象にプレ訓練を実施。終了後に振り返りを行い、アクションカードの見直しや初動ボックスの準備等、管理職編に向けて内容のブラッシュアップを図った。
- ②H29.10.24「管理職編」を実施。終了後に参加者にアンケートを実施。アクションカードや記録(クロノロ)等に関して出された多数の意見を踏まえ、一般職編に向けてツールの改善を行った。
- ③H30.1月「一般職編」を実施(1/9,1/16)。終了後に参加者にアンケート・全体の振り返りを実施。所全体の訓練(H30.3月実施予定)につなげていく。

【活動を進める上での工夫点】

- ・DHEAT養成研修の資料をベースに実施。その都度振り返りを行い、当地域の実情に合わせた資料に作り替える等内容をブラッシュアップしながら進めた。
- ・研修内容を所内企画会議に諮り、所属長や管理職のコンセンサスを得、事務所としての取組として確立した。
- ・継続的な取組となるように、企画メンバーを徐々に増やしてチームとして取り組んだ。企画総務班員や新任保健師も追加して、共通認識を持つ仲間を少しずつ増やしながら取り組んできた。

IV 考察

アンケートの「必須の確認事項は、予め記録用紙に整理しておく」とよい。「福祉避難所の一覧を準備しておくことも必要。」「一回ではなく、繰り返しやるべき。」「事務所には衛星電話がない。IE電話の存在を知らなかった。」等の意見から、全員参加型の初動訓練を通して、平時からの準備の必要性や繰り返し訓練を実施する重要性を実感できる研修となった。また、訓練中にアドリブ(避難者の登場)を入れることで、外部(地域住民等)への対応も考慮した。その他、事務所としての体制の不備(連絡手段の不足、周知の不足等)も明らかとなった。

所内研修のきっかけとなるDHEAT養成研修に複数の職員が出席できたこと、問題意識について共有できたことが、全てのスタートであった。同じ熱意を持った職員がチームとなり、またそのチームに他職員を巻き込みながら、自組織での取組を充実させていく中で、職員一人一人の危機管理意識の醸成を図ることが出来た。

V おわりに

災害時の混乱は不可避ではあるが、平常時から初動時の体制について戦略を立てておくことで、その後の混乱を最小限に食い止めることが出来る。次年度以降も、具体的・実践的な訓練の内容をブラッシュアップしながら、実際の災害時に対応できるような事務所としての体制整備や市町や関係機関も含めた連絡体制の構築につなげ、発災直後、誰が対応しても一定の対応が出来るような、アクションカードを活用した初動体制の確立が期待される。

VI 参考文献

平成29年度地域保健総合推進事業 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)養成研修(基礎編) 資料